

稲作農家の
みなさんへ

「あきたこまち」は
令和7年から

「あきたこまちR」

へ切り替わります！

あきたこまちRとは

- 「あきたこまち(母)」に、カドミウム低吸収品種「コシヒカリ環1号(父)」を交配した後、「あきたこまち」を7回戻し交配してできた品種(交配育種)です。
- **収量、品質、食味等の特性は「あきたこまち」と同等**で、カドミウムをほとんど吸収しないという特性を持っています。
- 「あきたこまちR」に切り替わっても、**これまでの「あきたこまち」と栽培管理は同じ**です。

あきたこまちRに切替する理由は

- **海外の基準値に合わせて、国内基準値が厳しくなっても対応できるようにするためです。**
→米産県として将来を見据え、国内外の消費者に安全なコメを供給していくことが重要です。

海外ではカドミウムやヒ素の基準は日本より厳しい

【カドミウム】日本:0.4ppm → 香港・シンガポール:0.2ppm、EU:0.15ppm

【無機ヒ素】日本:未設定 → 香港・シンガポール・コーデックス委員会:0.35ppm

輸出拡大
にも対応
が必要

- **「カドミウム」と「ヒ素」の両方を低減するためです。**
→カドミウムとヒ素の水管理の対策は全く逆になります。カドミウム低吸収の「あきたこまちR」に切り替えると、湛水管理が不要となり、両方を低減することが可能となります。

米袋の表示

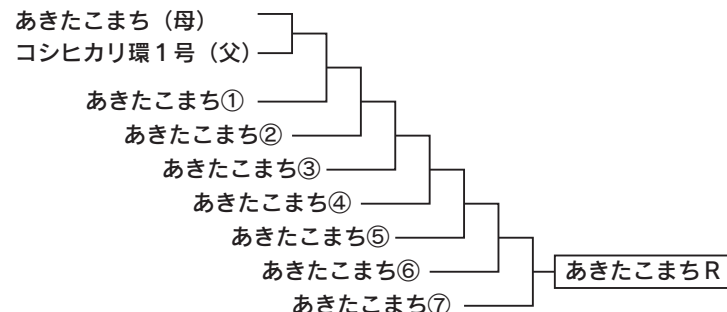
- 「あきたこまちR」は、「あきたこまち」と形質や品質の評価に差がないので、品種群として1つの銘柄となり、米袋の銘柄は「あきたこまち」、品種名は「あきたこまちR」となります。

美の国あきたネットの【**水稻新品種「あきたこまちR」を紹介します!**】
(<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/73119>) をご覧ください。



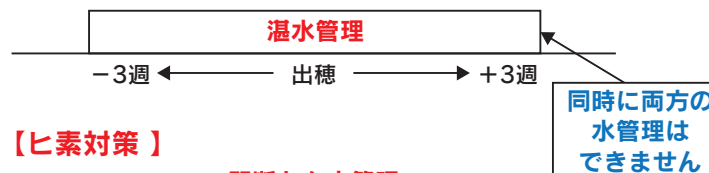
QR
コードは
こちら

あきたこまちRの育成系譜

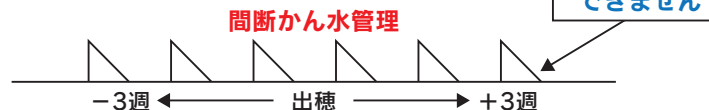


カドミウムとヒ素の吸収を抑制する水管理の違い

【カドミウム対策】



【ヒ素対策】



米袋の表示

検査証明書		
令和7年産	水稻うるち玄米	荷造り、包装及び左記の事項を証明する。
銘柄	秋田県産 あきたこまち	
正味重量規格	等級	
30kg		

検査請求者記載欄

検査請求者 秋田 太郎
住 所 秋田県秋田市山王四丁目〇番〇号
生 産 者 秋田県秋田市
品 種 名 (あきたこまちR)

「あきたこまちR」の特性は「あきたこまち」と同等です

(農業試験場、2019～2021年平均)

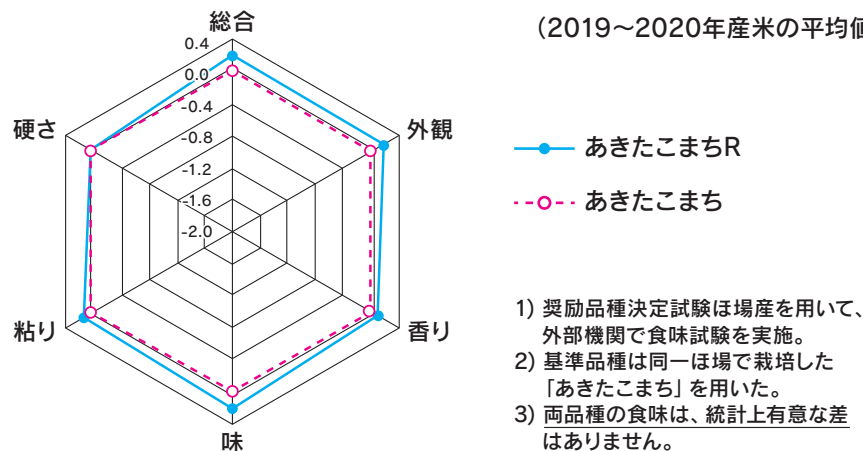
品 種 名		あきたこまちR	あきたこまち
早晩性		早生	早生
草型		偏穂数型	偏穂数型
耐病性	いもち耐病性	Pia、Pii	Pia、Pii
	遺伝子型	中	中
	葉いもち	やや弱	やや弱
	穂いもち	やや弱	やや弱
	白葉枯耐病性		
耐倒伏性		やや弱	やや弱
耐冷性(障害型)		中	中
穂発芽性		やや難	やや難
高温登熟性		中	中
出穂期(月日)		7.27	7.27
成熟期(月日)		9.05	9.06
稈長(cm)		76.8	77.1
穂長(cm)		17.3	17.6
穂数(本/m ²)		439	433
収量(kg/a)		57.3(98)	58.8(100)
千粒重(g)		22.6	22.8
品質(1~9)		1.8	2.0

※秋落ちしやすいほ場では「ごま葉枯病」に注意が必要です。

※品質は、1(1等上)～9(3等下)の9段階評価です。

「あきたこまちR」の食味は「あきたこまち」と同等です

(2019～2020年産米の平均値比較)



「あきたこまちR」の質問にお答えします

Q1 放射線育種による米ですか？

A ○「あきたこまちR」は、**放射線を照射して育成した米ではありません。**
「交配育種」による米です。

※「**コシヒカリ環1号**」は、**コシヒカリの種子に1度だけ放射線を照射して突然変異を誘発し、カドミウム低吸収性を持つ株を6世代以上栽培して、選抜を繰り返して育成された品種**です。

※放射線育種は、50年以上前から多くの農作物の品種改良に用いられ、自然界でも起きる突然変異を利用した**一般的な育種法**です。

※具体的には、水稲では耐冷性の「レイメイ」、耐倒伏性の「北陸100号」等の開発をきっかけに、「アキヒカリ」、「キヌヒカリ」などの後代品種が多数育成され、**現在、国内で生産される多くの水稲品種が、放射線育種由来**となっています。さらに、大豆や野菜、果樹等でも様々な品種が育成され、一般的に流通し食べられています。

※もちろん、**安全性に問題はなく、有機栽培としても認められます。**

Q2 なぜ、全県的に「あきたこまち」から「あきたこまちR」に切り替えるのですか？

A ○海外では、より厳しい**カドミウム**基準値を設定している国が多く、今後世界基準に合わせて**国内基準値が厳しくなる**ことが見込まれ、**そうなると、県内の一部だけの問題ではなくなります。**

○また、**ヒ素**の基準値を設定している国が多く、国内基準値が新たに設定されることが考えられますが、その対策は、**カドミウムと全く逆の水管理が求められる**ことになります。

○したがって、海外への販路拡大とともに、将来を見据え、**より厳しい基準になっても「米どころ秋田」で安全な米生産ができるように全県的に切り替える**ことが重要です。

Q3 栽培方法はこれまでと同じでいいですか？

A ○出穂期や成熟期、収量性や品質等は「あきたこまち」と同等で、基本的に**これまでと同じ栽培方法で問題ありません。**

○ただし、生育に問題は無いものの、マンガンの吸収能力が低下していることから、一部の秋落ちしやすいほ場では**「ごま葉枯病」の発生に注意が必要ですが、田植え時に使われる「いもち病」防除剤の種類を工夫すれば問題ありません。**

○引き続き、稲づくりの基本である「土づくり」に努めることが重要です。

この印刷物は80,000部作成し、作成経費は1部当たり2.78円です。

「あきたこまちR」生産・販売推進本部

問い合わせ先：秋田県農林水産部水田総合利用課 (TEL:018-860-1785) 秋田県農業試験場 (TEL:018-881-3312)